

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-136	A-139	24-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）			
Alcohol use and optimal chronic diseases' treatment outcomes among adults aged 40 years and above in rural South Africa アルコール使用と南アフリカ農村部に住む 40 歳以上の成人における慢性疾患治療の最適な転帰			
執筆者			
Mupfuti R, Kabudula CW, Francis JM.			
掲載誌			
Sci Rep. 2025 Mar 7;15(1):7951. doi: 10.1038/s41598-025-91704-7.			
キーワード		PMID	
アルコール使用、糖尿病、HIV、高血圧、多疾患併存、治療成績		40055425	
要 旨			
<p><b>背景：</b>南アフリカにおいて慢性疾患は重大な問題であり、その治療成績は罹患率および死亡率の低減に極めて重要である。南アフリカにおいては、高齢者のアルコール使用と慢性疾患の治療成績に関するデータは限られている。アルコール使用と慢性疾患の治療成績との関連を理解することは、両者に対応するための潜在的な介入策を検討する上で有用である。</p> <p><b>方法：</b>本研究は、INDEPTH コミュニティにおいて実施された縦断研究「Health and Ageing in Africa - a Longitudinal Study in an INDEPTH Community (HAALSI)」第 1 波のデータを分析した横断研究である。記述統計を用いて、慢性疾患における最適な治療成績（HIV 感染者におけるウイルス量抑制、降圧薬治療者の正常血圧、糖尿病患者の正常血糖〔ユージグリセミア〕）の有病率を算出し、修正ポアソン回帰を用いてアルコール使用と慢性疾患の治療成績との関連を検討し aRR と 95%信頼区間（CI）を算出した。</p> <p><b>結果：</b>解析対象者 5055 人（女性: 53.7%、60 歳以上: 51%）における飲酒習慣は、非飲酒者が 76.9%であった。最適な治療成績の有病率は、HIV 感染者ではウイルス量抑制が 87.4%、高血圧患者では正常血圧が 42.7%、糖尿病患者ではユージグリセミアが 53.6%、多疾患併存患者では正常パラメータが 52.4%であった。アルコール使用は、HIV（aRR = 1.00, 95%CI: 0.93-1.09）、高血圧（aRR = 0.88, 95%CI: 0.68-1.14）、糖尿病（aRR = 0.73, 95%CI: 0.44-1.22）、多疾患併存（aRR = 1.00, 95%CI: 0.93-1.09）であり、いずれの治療成績にも有意な関連を認めなかった。</p> <p><b>結論：</b>アルコール使用が治療成績に有意な関連を示さなかったのは、アルコール使用の過小申告が一因である可能性がある。今後は客観的なアルコール摂取量の測定とアルコール介入を慢性疾患の診療に組み込む必要がある。さらに高血圧や糖尿病の管理については、HIV 管理で用いられている戦略を採用するなど、管理体制の強化が急務である。</p>			